

第77回IRIDeS金曜フォーラム

日 時：令和4年5月20日（金）16時30分～18時00分

会 場：zoomによるオンライン実施

テーマ：「新任教員が携わる災害科学研究」

16:30～16:35 開会・趣旨説明

趣旨及びWeb開催上の留意点についてご説明いたします。

16:35～16:55（発表15分、質疑5分）

「海底地殻変動観測に基づく沈み込み帯プレート間地震のリスク評価」

話題提供者：富田 史章（災害評価・低減研究部門 海域地震学研究分野）

2011年東北地方太平洋沖地震の発生した日本海溝沿いの沈み込み帯のみならず、日本では南海トラフ沿い・千島海溝沿いなどの沈み込み帯における巨大地震の発生が懸念されている。こうした海域での地震の発生リスクを考える上では、震源域近傍での海底観測、及び海底観測データを用いた適切な固着すべり分布のモデル化が重要となる。本発表では、海底地殻変動観測と固着すべり分布推定の現状に加え、今後の研究の展望を紹介する。

16:55～17:15（発表15分、質疑5分）

「機械学習と数値解析の融合による津波リスク評価手法の開発」

話題提供者：野村 怜佳（日本工営レジリエントシティー技術実装共同研究部門）

発生が低頻度でありながら、リスクの大きい津波災害はその大規模性や不確実性のために、数値シミュレーション技術を活用したリスク評価が欠かせない。しかし、正確さを追求した高解像な数値解析は、計算コストが非常に高く、大量の試行によって多様な条件下を想定することが難しい。こうした「正確さ」と「コスト」のトレードオフを、データサイエンス技術と融合させることで解消しようと取り組んできた内容について発表する。

17:15～17:35（発表15分、質疑5分）

「風景情報認知の個人差—注意と記憶の観点から」

話題提供者：田邊 亜澄（災害評価・低減研究部門 津波工学研究分野）

ヒトが周囲の風景を見るとき偏りが生じる。外界の光学的特性に注意が引き付けられるからだと考えられる。またヒトは見たものすべてを記憶できないことが多い。ヒトの一時的記憶容量は3～4のまとまりに限られているからだと考えられている。こういったヒトの認知特性をふまえて、現前の場面から目下必要な情報を得るための注意と記憶の制御に関するわれわれの研究を紹介する。この特性は防災など重要な情報の提示において考慮する必要があると提言したい。

17:35～17:55（発表15分、質疑5分）

「災害時のジェンダーの差異を理解する 多様性のある社会へ」

話題提供者：北村 美和子（防災実践推進部門 国際研究推進オフィス）

地球温暖化、移民問題等の影響による自然災害の被害の拡大が懸念されている。女性や高齢者、障害者、移民などの社会的弱者の被害が深刻である傾向からインクルーシブな防災の概念が提唱されている。少子高齢化やジェンダーギャップの課題を有する日本の状況を踏まえ本発表では、東日本大震災発災時を対象に、津波避難躊躇とジェンダーの関係性について述べる。これらの教訓を国際社会へ還元させるための今後の研究展開等についての議論も行う。

17:55～18:00 閉会・事務連絡

司会・進行：ゲルスタ ユリア（災害人文社会研究部門 災害アーカイブ研究分野）